

『アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発』

2001/11/14

一般急性期病院用データシート

◎登録 ID \_\_\_\_\_

1. 記入年月日 西暦 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

2. 患者一般情報

(5) 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

(6) 性別 \_\_\_\_\_ 男 \_\_\_\_\_ 女

(7) 結婚 ①未婚  
②既婚

(8) 配偶者 ①配偶者有 内縁関係も配偶者に含める  
②配偶者無 発症時に配偶者がいなければ「無」

(9) 同居人 ①同居人有  
②同居人無

(10) 発症年月日 西暦 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

(11) 当院入院年月日 西暦 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

(12) 紹介元病院  
①無  
②有 (病院名 \_\_\_\_\_)

(13) 初診入院病院 ①当院初診入院  
②紹介元病院に同じ  
紹介元病院への入院年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
③別病院 (病院名 \_\_\_\_\_)

(14) 当院退院年月日 西暦 年 月 日

(15) 当院退院時転帰 ①自宅に戻る  
②病院・施設に転院  
③死亡

(16) 転院時の ADL 改善の見込み  
①ADL 改善が見込まれて、転院  
②ADL 改善が見込まれず、転院  
③ADL 改善の見込み 不明

(17) 当院入院期間 \_\_\_\_\_ 日

### 3. 患者疾患関連情報

(18) 脳血管疾患病名 脳梗塞 ・ 脳出血 ・ その他 ( \_\_\_\_\_ )

(19) 今回の発症前に身体障害が存在したかどうか  
①障害なし (日常生活に支障のない程度の軽微の障害はなしに含める)  
②障害有り

(20) 今回入院に際しての責任病巣  
①大脳半球 ( 右 ・ 左 ・ 両側 ・ 無 )  
②脳幹 ( 右 ・ 左 ・ 両側 ・ 中央 ・ 無 )  
③小脳 ( 右 ・ 左 ・ 両側 ・ 中央 ・ 無 )

(21) 麻痺側 ①右 ②左 ③両側 ④無

(22) 初診時血圧 最高血圧( \_\_\_\_\_ ) 最低血圧( \_\_\_\_\_ )mmHg

(23) 初診時脈拍 \_\_\_\_\_ bpm

(24) 初診時体温 \_\_\_\_\_ °C

(25) 初診時意識(覚醒度) ①清明  
②障害有 (JCS : \_\_\_\_\_ GCS : \_\_\_\_\_)

JCS i-1 以上は意識障害有りとする

- (26) 初診時眼球運動障害 ①正常  
②障害有 (不全麻痺、偏位、を含む)  
診療記録上に記録されていない場合は、障害なしとする
- (27) 初診時視野欠損 ①視野欠損 無  
②視野欠損 有 (部分的半盲を含む)  
③評価不能
- (28) 初診時顔面麻痺 ①顔面麻痺 無  
②顔面麻痺 有  
診療記録上に記録されていない場合は、障害なしとする
- (29) 患側上肢運動障害 ①障害 無  
②障害 有 (意識障害で保持できない場合を含む)  
MMT 5 4 3 2 1
- (30) 非患側上肢運動障害 ①障害 無  
②障害 有 (意識障害で保持できない場合を含む)  
MMT 5 4 3 2 1
- (31) 患側下肢運動障害 ①障害 無  
②障害 有 (意識障害で保持できない場合を含む)  
MMT 5 4 3 2 1
- (32) 非患側下肢運動障害 ①障害 無  
②障害 有 (意識障害で保持できない場合を含む)  
MMT 5 4 3 2 1
- (33) 四肢失調症 ①失調 無  
②失調 有  
③評価不能

ここから下の項目は、病状の安定した時期のデータとする

- (34) 感覚障害 (ピンブリック検査：明らかな左右非対称のみを異常とする。痛覚鈍麻を含む)  
①障害 無  
②障害 有  
③評価不能

意識障害や理解障害で判定できない時は、障害なしとする

(35) 無視 病状が安定した時点で判断する  
①障害 無  
②障害 有 (視覚、触覚、または聴覚の片側不注意を含む)  
(注意障害を含む)  
具体的内容( )  
③評価不能

(36) 構音障害 (明瞭度の低下を判定：失語がないか、失語と不釣り合いな場合を構音障害とする)  
①障害 無  
②障害 有 (聴き手の努力で理解可能を含む)  
③評価不能

(37) 失語 (絵カードの呼称と単語の音読、NIHSS 全体での聴覚的理解)  
①失語 無  
②失語 有 (呼称・音読の誤り、錯語、軽度失語を含む)  
NIHSS では発語がない場合は失語に入れる

(43) 痴呆の合併 急性期を過ぎた段階で判断  
①無  
②有 スコア \_\_\_\_\_  
③評価不能( )  
HDS-R 20 点以下、MMSE 23 点以下を痴呆ありとする

(38) 脳卒中の既往 無 ・ 有 (病名： )  
TIA を含む

(39) 糖尿病合併 無 ・ 有  
食餌療法を含めて、何らかの治療が加えられているもの

(40) 高血圧症合併 無 ・ 有  
治療が行われていないものも含む。明らかに高血圧とわかる既往があるものも含む。

(41) 心房細動合併 無 ・ 有  
過去の心房細動の既往も含む

(42) 狭心症・心筋梗塞の合併 無 ・ 有

(44) リハビリテーション開始日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
リハビリ開始までの日数 \_\_\_\_\_ 日  
[ = 開始日 - 入院日 ]

(45) 入院中の合併症 入院期間・治療に影響を及ぼした疾患を5件まで列記

合併症数 \_\_\_\_\_ 件  
具体的病名 ① \_\_\_\_\_  
② \_\_\_\_\_  
③ \_\_\_\_\_  
④ \_\_\_\_\_  
⑤ \_\_\_\_\_

脳卒中の増悪もこの中に含める

入院中の脳卒中の増悪 無  
有

(46) 初診時CT所見 (計測年月日 \_\_\_\_\_ )

①脳梗塞の場合

初期 focal hypodensity 無  
有  
評価不能 理由(\_\_\_\_\_)

lacuna stroke 無 \_\_\_\_\_ 有 \_\_\_\_\_

mass effect 無 \_\_\_\_\_ 有 \_\_\_\_\_

②脳出血の場合

出血部位 \_\_\_\_\_

【備考欄】 この備考欄の記載は患者疾患情報の備考欄に記録する

一般急性期病院用 ADL 評価表 — Barthel Index 準拠 —

1. 評価日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

2. 第 \_\_\_\_\_ 回 評価

3. 入院第 \_\_\_\_\_ 週 相当、発症第 \_\_\_\_\_ 日目、入院第 \_\_\_\_\_ 日目

[評価日 - 発症日 + 1] [評価日 - 入院日 + 1]

4. 評点 ① 食事 \_\_\_\_\_ ⑤ 入浴 \_\_\_\_\_ ⑨ 排便 \_\_\_\_\_

② 移乗 \_\_\_\_\_ ⑥ 歩行 \_\_\_\_\_ ⑩ 排尿 \_\_\_\_\_

③ 整容 \_\_\_\_\_ ⑦ 階段昇降 \_\_\_\_\_

④ トイレ \_\_\_\_\_ ⑧ 更衣 \_\_\_\_\_ 合計点 \_\_\_\_\_

【食事】

10=自立：患者は、手の届くところに誰かが食物を置いてやれば、トレイやテーブルから食物をとって食べる。患者は必要があれば自助具をつけて食物を切り、塩や胡椒を用い、パンにバターをつける等をおこなわなければならない。これを応分の時間内に終えなければならない。  
5=部分的介助：何らかの介助が必要である(上記の食物を切る等)  
0=全介助

【移乗】

15=自立：この活動のすべての相が自立。患者は車椅子に乗って安全にベッドに近づき、ブレーキを掛け、フットレストを上げ、安全にベッドに移り、横になる。ベッドの端で座位となり、安全に車椅子に戻るのに必要ならば車椅子の位置を変え、車椅子に戻る。  
10=軽度介助、監視：この活動のいずれかの段階で、わずかの介助を要する。あるいは安全のために患者に気付かせてあげるか、監視を要する。  
5=要介助：患者は介助なしに座位になれるが、ベッドからは持ち上げてもらう、或いは移乗にかなりの介助を要する。  
0=全介助、或いは不能

【洗面・整容】

5=自立：患者は手と顔を洗い、髪をとかし、歯を磨き、鬚を剃ることができる。どのようなカミソリを使用してもよいが、引出しや戸棚から取り出し、歯を交換したり、ソケットに接続することは介助なしに出来なければならない。女性は化粧を行っていたのであれば化粧が出来なければならないが、頭髪を結んだり髪型を作らなくてもよい。  
0=部分介助または全介助

【トイレ】

10=自立：患者はトイレの出入り、衣類の着脱ができ、衣類を汚さず、介助なしにトイレトペーパーを使うことができる。必要なら手すり等の安定した支えを利用してもよい。トイレの代わりに便器を使用することが必要であれば、患者は便器を椅子のしたに置き、空にし、綺麗にすることが出来なければならない。  
5=部分介助：患者はバランスが悪いため、或いは衣類の処理やトイレトペーパーの扱いに介助を要する。  
0=全介助または不能

【入浴】

5=自立：浴槽、シャワー、スポンジ(簡単な沐浴、スポンジで洗い流す)のいずれかを使用できる。どの方法であっても、他人がいなくても必要なすべての段階を自分で行わなければならない。  
0=部分介助または全介助

【歩行】

15=自立：少なくとも 45m 介助或いは監視なしで歩くことができる。患者は装具或いは義足をつけ、クラッチ、

杖或いは固定型歩行器を使用してもよいが、車輪型歩行器の使用は認めない。装具を使用するときは自分で締めたり、緩めたり出来なければならない。立位をとることや座ることも出来、機械的装具を使うところに置き、座る時は片付けることが出来なければならない。  
10=介助歩行：患者は上記事項のいずれかに介助或いは監視を要するが、わずかの介助で少なくとも 45m は歩くことができる。

5=歩行不能の場合、車椅子の駆動：患者は歩くことが出来ないが、車椅子を一人で駆動することが出来る。角を曲がる、向きを変える、テーブルやベッド、トイレット等へと車椅子を操作できなければならない。少なくとも 45m は移動できなければならない。  
0=不能

【階段昇降】  
10=自立：介助或いは監視なしに安全に階段の昇降が出来る。必要であれば手すりや杖、クラッチを使用すべきである。階段昇降に際して杖やクラッチを持っていなければならない。  
5=介助または監視を要する：上記項目のいずれかに介助或いは監視を必要とする。  
0=不能

【更衣】

10=自立：すべての衣類を着脱し、ボタン等を掛け、靴紐を結ぶことができる(このための改造を行っていないのであれば)。この活動はコルセットや装具が処方されていないならば、それらを着脱することを含む。必要であればスポン吊りやローファー(靴)、前開き衣類を使用してもよい。  
5=部分介助：衣類を着脱し、ボタンを掛ける等に介助を要する。少なくとも半分は自分で行なう。応分の時間内終わらなければならない。  
0=上記以外

【排便】  
10=自立：失禁なし；排便のコントロールが出来て、失敗することがない。必要な時には座薬や浣腸を使用できる(排便訓練を受けた脊髄損傷患者に関して)。  
5=時に失禁：時に失敗することあり。座薬や浣腸に介助を要する。  
0=上記以外

【排尿】

10=自立・失禁なし：日夜、排尿のコントロールが出来る。集尿器と装着式集尿袋を使用している脊髄損傷患者は、それらを一人で身に付け、きれいにし、集尿袋を空にし、日夜とも陰股部が乾いていなければならない。  
5=時に失敗する。或いは便器の使用が間に合わない。トイレに時間以内につけない。集尿器などに介助を要する。  
0=上記以外

一般急性期病院用 ADL 評価表 — Barthel Index 準拠 —

1. 評価日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

2. 第 \_\_\_\_\_ 回 評価 または 最終評価

3. 入院第 \_\_\_\_\_ 週 相当、発症第 \_\_\_\_\_ 日目、入院第 \_\_\_\_\_ 日目

[評価日-発症日+1] [評価日-入院日+1]

4. 評点 ① 食事 \_\_\_\_\_ ⑤ 入浴 \_\_\_\_\_ ⑨ 排便 \_\_\_\_\_

② 移乗 \_\_\_\_\_ ⑥ 歩行 \_\_\_\_\_ ⑩ 排尿 \_\_\_\_\_

③ 整容 \_\_\_\_\_ ⑦ 階段昇降 \_\_\_\_\_

④ トイレ \_\_\_\_\_ ⑧ 更衣 \_\_\_\_\_ 合計点 \_\_\_\_\_

【食事】

10=自立：患者は、手の届くところに誰かが食物を置いてやれば、トレイやテーブルから食物をとって食べる。患者は必要があれば自助具をつけて食物を切り、塩や胡椒を用い、パンにバターをつける等をおこなわなければならない。これを応分の時間内に終えなければならない。  
5=部分的介助：何らかの介助が必要である(上記の食物を切る等)  
0=全介助

【移乗】

15=自立：この活動のすべての相が自立。患者は車椅子に乗って安全にベッドに近づき、ブレーキを掛け、フットレストを上げ、安全にベッドに移り、横になる。ベッドの端で座位となり、安全に車椅子に戻るのに必要ならば車椅子の位置を変え、車椅子に戻る。  
10=軽度介助、監視：この活動のいずれかの段階で、わずかの介助を要する。あるいは安全のために患者に気付けてあげるか、監視を要する。  
5=要介助：患者は介助なしに座位になれるが、ベッドからは持ち上げてもらう、或いは移乗にかなりの介助を要する。  
0=全介助、或いは不能

【洗面・整容】

5=自立：患者は手と顔を洗い、髪をとかし、歯を磨き、鬚を剃ることができる。どのようなカミソリを使用してもよいが、引出しや戸棚から取り出し、歯を交換したり、ソケットに接続することは介助なしに出来なければならない。女性は化粧を行っていたのであれば化粧が出来なければならないが、頭髪を結んだり髪型を作らなくてもよい。  
0=部分介助または全介助

【トイレ】

10=自立：患者はトイレの出入り、衣類の着脱ができ、衣類を汚さず、介助なしにトイレトーパーを使うことができる。必要なら手すり等の安定した支えを利用してもよい。トイレの代わりに便器を使用することが必要であれば、患者は便器を椅子のしたに置き、空にし、綺麗にすることが出来なければならない。  
5=部分介助：患者はバランスが悪いため、或いは衣類の処理やトイレトーパーの扱いに介助を要する。  
0=全介助または不能

【入浴】

5=自立：浴槽、シャワー、スポンジ(簡単な沐浴、スポンジで洗い流す)のいずれかを使用できる。どの方法であっても、他人がいなくても必要なすべての段階を自分でこななければならない。  
0=部分介助または全介助

【歩行】

15=自立：少なくとも 45m 介助或いは監視なしで歩くことができる。患者は装具或いは義足をつけ、クラッチ、

杖或いは固定型歩行器を使用してもよいが、車輪型歩行器の使用は認めない。装具を使用するときは自分で締めたり、緩めたり出来なければならない。立位をとることや座ることも出来、機械的装具を使うところに置き、座る時は片付けることが出来なければならない。  
10=介助歩行：患者は上記事項のいずれかに介助或いは監視を要するが、わずかの介助で少なくとも 45m は歩くことができる。

5=歩行不能の場合、車椅子の駆動：患者は歩くことが出来ないが、車椅子を一人で駆動することが出来る。角を曲がる、向きを変える、テーブルやベッド、トイレトーパーへと車椅子を操作できなければならない。少なくとも 45m は移動できなければならない。  
0=不能

【階段昇降】

10=自立：介助或いは監視なしに安全に階段の昇降が出来る。必要であれば手すりや杖、クラッチを使用すべきである。階段昇降に際して杖やクラッチを持っていられなければならない。  
5=介助または監視を要する：上記項目のいずれかに介助或いは監視を必要とする。  
0=不能

【更衣】

10=自立：すべての衣類を着脱し、ボタン等を掛け、靴紐を結ぶことができる(このための改造を行っていないのであれば)。この活動はコルセットや装具が処方されなければ、それらを着脱することを含む。必要であればスポン吊りやローファー(靴)、前開き衣類を使用してもよい。  
5=部分介助：衣類を着脱し、ボタンを掛ける等に介助を要する。少なくとも半分は自分で行なう。応分の時間内終わらなければならない。  
0=上記以外

【排便】

10=自立：失禁なし；排便のコントロールが出来て、失敗することがない。必要な時には座薬や浣腸を使用できる(排便訓練を受けた脊髄損傷患者に関して)。  
5=時に失禁：時に失敗することあり。座薬や浣腸に介助を要する。  
0=上記以外

【排尿】

10=自立・失禁なし：日夜、排尿のコントロールが出来る。集尿器と装着式集尿袋を使用している脊髄損傷患者は、それらを一人で身に付け、きれいにし、集尿袋を空にし、日夜とも陰股部が乾いていなければならない。  
5=時に失敗する。或いは便器の使用が間に合わない。トイレに時間以内につけない。集尿器などに介助を要する。  
0=上記以外

一般急性期病院用 ADL 評価表 — Barthel Index 準拠 —

1. 評価日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

2. 第 \_\_\_\_\_ 回 評価 または 最終評価

3. 入院第 \_\_\_\_\_ 週 相当、発症第 \_\_\_\_\_ 日目、入院第 \_\_\_\_\_ 日目

[評価日-発症日+1] [評価日-入院日+1]

4. 評点 ① 食事 \_\_\_\_\_ ⑤ 入浴 \_\_\_\_\_ ⑨ 排便 \_\_\_\_\_

② 移乗 \_\_\_\_\_ ⑥ 歩行 \_\_\_\_\_ ⑩ 排尿 \_\_\_\_\_

③ 整容 \_\_\_\_\_ ⑦ 階段昇降 \_\_\_\_\_

④ トイレ \_\_\_\_\_ ⑧ 更衣 \_\_\_\_\_ 合計点 \_\_\_\_\_

【食事】

10=自立：患者は、手の届くところに誰かが食物を置いてやれば、トレイやテーブルから食物をとって食べる。患者は必要があれば自助具をつけて食物を切り、塩や胡椒を用い、パンにバターをつける等をおこなわなければならない。これを応分の時間内に終えなければならない。  
5=部分的介助：何らかの介助が必要である(上記の食物を切る等)  
0=全介助

【移乗】

15=自立：この活動のすべての相が自立。患者は車椅子に乗って安全にベッドに近づき、ブレーキを掛け、フットレストを上げ、安全にベッドに移り、横になる。ベッドの端で座位となり、安全に車椅子に戻るのに必要ならば車椅子の位置を変え、車椅子に戻る。  
10=軽度介助、監視：この活動のいずれかの段階で、わずかの介助を要する。あるいは安全のために患者に気付かせてあげるか、監視を要する。  
5=要介助：患者は介助なしに座位になれるが、ベッドからは持ち上げてもらう、或いは移乗にかなりの介助を要する。  
0=全介助、或いは不能

【洗面・整容】

5=自立：患者は手と顔を洗い、髪をとかし、歯を磨き、鬚を剃ることができる。どのようなカミソリを使用してもよいが、引出しや戸棚から取り出し、歯を交換したり、ソケットに接続することは介助なしに出来なければならない。女性は化粧を行っていたのであれば化粧が出来なければならないが、頭髪を結んだり髪型を作らなくてもよい。  
0=部分介助または全介助

【トイレ】

10=自立：患者はトイレの出入り、衣類の着脱ができ、衣類を汚さず、介助なしにトイレペーパーを使うことができる。必要なら手すり等の安定した支えを利用してよい。トイレの代わりに便器を使用することが必要であれば、患者は便器を椅子のしたに置き、空にし、奇麗にすることが出来なければならない。  
5=部分介助：患者はバランスが悪いため、或いは衣類の処理やトイレペーパーの扱いに介助を要する。  
0=全介助または不能

【入浴】

5=自立：浴槽、シャワー、スポンジ(簡単な沐浴、スポンジで洗い流す)のいずれかを使用できる。どの方法であっても、他人がいなくても必要なすべての段階を自分で行なわなければならない。  
0=部分介助または全介助

【歩行】

15=自立：少なくとも 45m 介助或いは監視なしで歩くことが出来る。患者は装具或いは義足をつけ、クラッチ、

杖或いは固定型歩行器を使用してもよいが、車輪型歩行器の使用は認めない。装具を使用するときは自分で締めたり、緩めたり出来なければならない。立位をとることや座ることも出来、機械的装具を使うところに置き、座る時は片付けることが出来なければならない。  
10=介助歩行：患者は上記事項のいずれかに介助或いは監視を要するが、わずかの介助で少なくとも 45m は歩くことができる。

5=歩行不能の場合、車椅子の駆動：患者は歩くことが出来ないが、車椅子を一人で駆動することが出来る。角を曲がる、向きを変える、テーブルやベッド、トイレット等へと車椅子を操作できなければならない。少なくとも 45m は移動できなければならない。  
0=不能

【階段昇降】

10=自立：介助或いは監視なしに安全に階段の昇降が出来る。必要であれば手すりや杖、クラッチを使用すべきである。階段昇降に際して杖やクラッチを持っていなければならない。  
5=介助または監視を要する：上記項目のいずれかに介助或いは監視を必要とする。  
0=不能

【更衣】

10=自立：すべての衣類を着脱し、ボタン等を掛け、靴紐を結ぶことができる(このための改造を行っていないのであれば)。この活動はコルセットや装具が処方されていれば、それらを着脱することを含む。必要であればスポン吊りやローファー(靴)、前開き衣類を使用してもよい。  
5=部分介助：衣類を着脱し、ボタンを掛ける等に介助を要する。少なくとも半分は自分で行なう。応分の時間内終わらなければならない。  
0=上記以外

【排便】

10=自立・失禁なし：排便のコントロールが出来て、失敗することがない。必要な時には座薬や浣腸を使用できる(排便訓練を受けた脊髄損傷患者に関して)。  
5=時に失禁：時に失敗することあり。座薬や浣腸に介助を要する。  
0=上記以外

【排尿】

10=自立・失禁なし：日夜、排尿のコントロールが出来る。集尿器と装着式集尿袋を使用している脊髄損傷患者は、それらを一人で身に付け、きれいにし、集尿袋を空にし、日夜とも陰股部が乾いていなければならない。  
5=時に失敗する。或いは便器の使用が間に合わない。トイレに時間以内につけない。集尿器などに介助を要する。  
0=上記以外



一般急性期病院用 ADL 評価表 — Barthel Index 準拠 —

1. 評価日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

2. 第 \_\_\_\_\_ 回 評価 または 最終評価

3. 入院第 \_\_\_\_\_ 週 相当、発症第 \_\_\_\_\_ 日目、入院第 \_\_\_\_\_ 日目

[評価日-発症日+1] [評価日-入院日+1]

4. 評点 ① 食事 \_\_\_\_\_ ⑤ 入浴 \_\_\_\_\_ ⑨ 排便 \_\_\_\_\_

② 移乗 \_\_\_\_\_ ⑥ 歩行 \_\_\_\_\_ ⑩ 排尿 \_\_\_\_\_

③ 整容 \_\_\_\_\_ ⑦ 階段昇降 \_\_\_\_\_

④ トイレ \_\_\_\_\_ ⑧ 更衣 \_\_\_\_\_ 合計点 \_\_\_\_\_

【食事】

10=自立：患者は、手の届くところに誰かが食物を置いてやれば、トレイやテーブルから食物をとって食べる。患者は必要があれば自助具をつけて食物を切り、塩や胡椒を用い、パンにバターをつける等をおこなわなければならない。これを応分の時間内に終えなければならない。  
5=部分的介助：何らかの介助が必要である(上記の食物を切る等)  
0=全介助

【移乗】

15=自立：この活動のすべての相が自立。患者は車椅子に乗って安全にベッドに近づき、ブレーキを掛け、フットレストを上げ、安全にベッドに移り、横になる。ベッドの端で座位となり、安全に車椅子に戻るのに必要なならば車椅子の位置を変え、車椅子に戻る。  
10=軽度介助、監視：この活動のいずれかの段階で、わずかの介助を要する。あるいは安全のために患者に気付かせてあげるか、監視を要する。  
5=要介助：患者は介助なしに座位になれるが、ベッドからは持ち上げてもらう、或いは移乗にかなりの介助を要する。  
0=全介助、或いは不能

【洗面・整容】

5=自立：患者は手と顔を洗い、髪をとかし、歯を磨き、鬚を剃ることができる。どのようなカミソリを使用してもよいが、引出しや戸棚から取り出し、歯を交換したり、ソケットに接続することは介助なしに出来なければならない。女性は化粧を行っていたのであれば化粧が出来なければならないが、頭髪を結んだり髪型を作らなくてもよい。  
0=部分介助または全介助

【トイレ】

10=自立：患者はトイレの出入り、衣類の着脱ができ、衣類を汚さず、介助なしにトイレトペーパーを使うことができる。必要なら手すり等の安定した支えを利用してもよい。トイレの代わりに便器を使用することが必要であれば、患者は便器を椅子のしたに置き、空にし、綺麗にすることが出来なければならない。  
5=部分介助：患者はバランスが悪いため、或いは衣類の処理やトイレトペーパーの扱いに介助を要する。  
0=全介助または不能

【入浴】

5=自立：浴槽、シャワー、スポンジ(簡単な沐浴、スポンジで洗い流す)のいずれかを使用できる。どの方法であっても、他人がいなくても必要なすべての段階を自分でこななければならない。  
0=部分介助または全介助

【歩行】

15=自立：少なくとも 45m 介助或いは監視なしで歩くこ

とができる。患者は装具或いは義足をつけ、クラッチ、杖或いは固定型歩行器を使用してもよいが、車輪型歩行器の使用は認めない。装具を使用するときは自分で締めたり、緩めたり出来なければならない。立位をとることや座ることも出来、機械的装具を使うところに置き、座る時は片付けることが出来なければならない。

10=介助歩行：患者は上記事項のいずれかに介助或いは監視を要するが、わずかの介助で少なくとも 45m は歩くことができる。

5=歩行不能の場合、車椅子の駆動：患者は歩くことが出来ないが、車椅子を一人で駆動することが出来る。角を曲がる、向きを変える、テーブルやベッド、トイレト等へと車椅子を操作できなければならない。少なくとも 45m は移動できなければならない。  
0=不能

【階段昇降】

10=自立：介助或いは監視なしに安全に階段の昇降が出来ないが、必要であれば手すりや杖、クラッチを使用すべきである。階段昇降に際して杖やクラッチを持っていなければならない。

5=介助または監視を要する：上記項目のいずれかに介助或いは監視を必要とする。

0=不能

【更衣】

10=自立：すべての衣類を着脱し、ボタン等を掛け、靴紐を結ぶことができる(このための改造を行っていないのであれば)。この活動はコルセットや装具が処方されていれば、それらを着脱することを含む。必要であればズボン吊りやローファー(靴)、前開き衣類を使用してもよい。

5=部分介助：衣類を着脱し、ボタンを掛ける等に介助を要する。少なくとも半分は自分で行なう。応分の時間内終わらなければならない。  
0=上記以外

【排便】

10=自立・失禁なし：排便のコントロールが出来て、失敗することがない。必要な時には座薬や洗腸を使用できる(排便訓練を受けた脊髄損傷患者に関して)。

5=時に失禁：時に失敗することあり。座薬や洗腸に介助を要する。  
0=上記以外

【排尿】

10=自立・失禁なし：日夜、排尿のコントロールが出来ると。集尿器と装着式集尿袋を使用している脊髄損傷患者は、それらを一人で身に付け、きれいにし、集尿袋を空にし、日夜とも陰股部が乾いていなければならない。  
5=時に失敗する。或いは便器の使用が間に合わない。トイレに時間以内につけない。集尿器などに介助を要する。  
0=上記以外

## 資料 2

### データベース調査項目票

## リハビリテーション データベースの構成概要

### 患者

患者氏名

性別

ID

生年月日：\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

入院年月日：\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

### 基本的な疾患情報

入院疾患名：脳卒中（脳梗塞 脳出血 くも膜下出血） その他の脳血管障害

骨折(大腿骨頸部骨折 その他の骨折)

脊髄損傷

切断

その他（病名：\_\_\_\_\_）

発症前職業

発症日・受傷日：\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

今回が当該疾患でののはじめての入院か：はじめて 2回目以上

利き手： 右 左 利き手交換後

合併症： 無 有

廃用症候群：無 有

リハビリテーション歴：無 有

具体的病名

発病前 ADL

発病前 痴呆老人日常生活自立度判定基準：I、IIa、IIb、IIIa、IIIb、IV、M

家族・家庭環境

同居家族（配偶者、その他[①、②、I]）

発病・介護による家族の変化

社会生活：無、有→具体的記述

健康上の問題の発生：無、有→具体的記述

心理的問題の発生：無、有→具体的記述

家庭環境

脳梗塞・脳出血の場合の病巣部位：

入院時 血圧\_\_\_\_\_ 脈拍\_\_\_\_\_ 体温\_\_\_\_\_

入院時一般検査所見

血算： 白血球数\_\_\_\_\_ Hb\_\_\_\_\_ 血小板数\_\_\_\_\_

生化学：TP\_\_\_\_\_ Alb\_\_\_\_\_ 血糖\_\_\_\_\_ T.Chol\_\_\_\_\_ T.G.\_\_\_\_\_

心電図所見：心房細動(有・無)、虚血性心臓病(有・無)

身長 \_\_\_\_\_ cm・測定不能

体重 \_\_\_\_\_ kg・測定不能

関節可動域(他動的) ROM (Range of Motion) 別紙参照

関節・骨の変形

四肢周径(切断肢)

徒手筋力検査 MMT (Manual Muscle Test) 別紙参照

握力 右\_\_\_\_\_ kg、左\_\_\_\_\_ kg・測定不能・未実施

意識障害

評価年月日	評価者		
Japan Coma Scale	正常		
	I 刺激なしで覚醒している	1	2
	II 刺激すると覚醒する、刺激を止めると眠り込む	10	20
	III 刺激しても覚醒しない状態	100	200

Glasgow Coma Scale	E 開眼	V 言葉による応答	M 運動による最良の応答
	4 自発的 3 言葉により 2 痛み刺激により 1 開眼しない	5 見当識あり 4 錯乱状態 3 不適切な言葉 2 理解できない声 1 発声がない	6 命令に従う 5 痛み刺激部位に手を持って来る 4 四肢を屈曲する 3 四肢を逃避する 2 四肢を異常屈曲する 1 まったく動かさない

感覚障害

評価年月日	評価者								
表在覚	正常	感覚鈍麻	感覚脱失	異常感覚	感覚過敏	疼痛	評価不能	みなし正常	→図示
深部覚	正常	感覚鈍麻	感覚脱失	異常感覚	感覚過敏	疼痛	評価不能	みなし正常	→図示

視力・視野障害

評価年月日	評価者			
視力障害	正常	障害有	評価不能	みなし正常
視野障害	正常	障害有	評価不能	みなし正常

症状名： (半盲など)

深部腱反射

評価年月日	評価者					
上腕二頭筋	消失	低下	正常	亢進	著明亢進	みなし正常
上腕三頭筋	消失	低下	正常	亢進	著明亢進	みなし正常
腕橈骨筋	消失	低下	正常	亢進	著明亢進	みなし正常
膝蓋腱	消失	低下	正常	亢進	著明亢進	みなし正常
アキレス腱	消失	低下	正常	亢進	著明亢進	みなし正常
腹壁	消失	低下	正常	亢進	著明亢進	みなし正常
Hoffmann	陰性	陽性	判定困難	みなし正常		
Babinski	陰性	陽性	判定困難	みなし正常		

筋緊張異常

低緊張：有 無 → 部位名

痙性：有 無 → 部位名

Ashworth scale

固縮：有 無 → 部位名

構語障害・嚥下障害

評価年月日	評価者			
構語障害	障害無	障害有	みなし正常	→ 障害一覧表にジャンプ
嚥下障害	障害無	障害有	評価不能	未実施 → 障害一覧表にジャンプ

高次脳機能

評価年月日	評価者			
注意障害	正常	障害有	評価不能	みなし正常
半側空間失認	正常	障害有	評価不能	みなし正常
その他の失認	症状名：			
失行	正常	障害有	評価不能	みなし正常
失語症	正常	障害有	評価不能	みなし正常
	SLTA			
痴呆	正常	障害有	評価不能	みなし正常
	HDS-R			
	MMSE			

失行症状名：  
失語症タイプ：

記憶障害

評価年月日	評価者			
記憶障害	正常	障害有	評価不能	みなし正常

基本的姿勢・動作

評価年月日		評価者						
背臥位からの寝返り	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能			
背臥位からの起き上がり	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能			
座位保持、座位バランス	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能			
座位からの移動	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能	装具:	不要	要
立ち上がり動作	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能	装具:	不要	要
立位保持、立位バランス	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能	装具:	不要	要
歩行バランス	正常	軽度介助	中等度介助	高度介助	不能	装具:	不要	要

脳卒中片麻痺 Brunnstrom stage

評価年月日		評価者			
右上肢障害	障害無	障害有 (BRST)	評価不能	評価対象外	
右手指障害	障害無	障害有 (BRST)	評価不能	評価対象外	
右下肢障害	障害無	障害有 (BRST)	評価不能	評価対象外	
左上肢障害	障害無	障害有 (BRST)	評価不能	評価対象外	
左手指障害	障害無	障害有 (BRST)	評価不能	評価対象外	
左下肢障害	障害無	障害有 (BRST)	評価不能	評価対象外	

移動動作

評価年月日		評価者						補助具			
移乗動作	介助度					握まり					
ベッドからの起き上がり	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ
ベッド⇄車椅子	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ
車椅子⇄椅子	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ
トイレの便器に移る・離れる	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ
浴室への移乗	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ
シャワー椅子への移乗	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ
浴槽への移乗	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要	一介助内容表へジャンプ

評価年月日	評価者								
車椅子移動	不要								
	50m以上操作できる、介助不要								
	50m以上操作できるが、方向転換時に要介助	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
	15-50m操作できる、自立している								
	15-50m操作できる、方向転換時要介助	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
	15m以下しか移動できない	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
全介助	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ	
不能									

評価年月日	評価者								
歩行移動	自立、介助不要、適切な時間で50m以上歩行している								
	杖・装具使用して50m以上歩行している	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
	介助にて50m歩行している	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
	15-50m自立して歩行している								
	杖・装具使用して15-50m以上歩行している、要介助	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
	15m以下の歩行	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ
遠い遠いでの移動	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助					→介助内容表・杖装具表にジャンプ	
不能									

評価年月日	評価者									
階段昇降			介助度				手すり		補助具	
一フロア分の階段昇降	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要
半フロア分の階段昇降	自立	見守り・声がけ	一部介助	高度・全介助	不能	未実施	要	不要	要	不要

評価年月日	評価者									
食事										
食事場所	食堂	ベッド脇	ベッド上							
姿勢	椅子座位	車椅子座位	ギャッジアップ	端座位	側臥位					
食思	良好	不良	不安定							
食事スピード	正常	遅延	性急							
意識レベル	清明	傾眠	不安定						→「意識」のところで代用できないか？	
集中力	正常	散漫	不安定							
認知	散漫	障害	不明						→「高次脳機能障害」のところで代用できないか？	
把持										
スプーンの把持	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
箸の把持	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
コップを持つ	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
食器を押える	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
茶碗を持つ	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
瓶の蓋をあける	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
調味料をかける	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
エプロンをかける	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	→装具表にジャンプ
摂食										
食物を小さくする	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	
食物をはさむ・すくう	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	
食物を口まで運ぶ	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	
口からこぼす	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	
口の中に食物がたまる	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	
嚥下障害	完全自立	要介助	不可能	評価不能					→介助内容表にジャンプ	

トイレ動作

評価年月日	評価者			
尿意	有	無	評価不能	持続導尿中
便意	有	無	評価不能	
尿失禁	全部失禁	一部失禁	無	評価不能
便失禁	全部失禁	一部失禁	無	評価不能
ドア、カーテンの開閉	完全自立	要介助	不可能	評価不能
車椅子の定位	完全自立	要介助	不可能	評価不能
立ち上がって方向転換	完全自立	要介助	不可能	評価不能
立位保持	完全自立	要介助	不可能	評価不能
ズボン・パンツを下げる	完全自立	要介助	不可能	評価不能
腰を下ろす	完全自立	要介助	不可能	評価不能
紙を取って、ちぎる	完全自立	要介助	不可能	評価不能
拭く	完全自立	要介助	不可能	評価不能
立ち上がる	完全自立	要介助	不可能	評価不能
服を整える	完全自立	要介助	不可能	評価不能
方向転換	完全自立	要介助	不可能	評価不能
車椅子に座る	完全自立	要介助	不可能	評価不能

→介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ

ポータブルトイレ用

布団をはがす	完全自立	要介助	不可能	評価不能
ベッド上に起き上がる	完全自立	要介助	不可能	評価不能
ベッド脇に立つ	完全自立	要介助	不可能	評価不能
pトイレの蓋を開ける	完全自立	要介助	不可能	評価不能
pトイレの蓋を閉める	完全自立	要介助	不可能	評価不能
ベッド上に座る	完全自立	要介助	不可能	評価不能
臥床する	完全自立	要介助	不可能	評価不能
布団をかける	完全自立	要介助	不可能	評価不能

→介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ

整容動作

評価年月日	評価者			
口腔ケア	完全自立	要介助	不可能	評価不能
整髪	完全自立	要介助	不可能	評価不能
手洗い	完全自立	要介助	不可能	評価不能
洗顔	完全自立	要介助	不可能	評価不能
髭剃り/化粧	完全自立	要介助	不可能	評価不能
爪切り	完全自立	要介助	不可能	評価不能

→介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ  
 →介助内容表にジャンプ



入浴動作		評価年月日	評価者					
浴室への移動	シャワーキャリー・車椅子・手引杖歩行・伝い歩き・独歩			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
脱衣	上位 (姿勢:立位 座位)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	下衣 (姿勢:立位 座位)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
浴室内の移動	シャワーキャリー・車椅子・手引杖歩行・伝い歩き・独歩			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
浴槽の出入り	浴槽に入る時 (バスボード、手すり、浴槽のふち)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	浴槽の立位保持			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	浴槽内への座り (バスボード、手すり、浴槽のふち)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	浴槽内の姿勢保持 (バスボード、手すり、浴槽のふち)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	浴槽からの立ち上がり (バスボード、手すり、浴槽のふち)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	浴槽から出る (バスボード、手すり、浴槽のふち)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
洗体	タオルに石鹸をつける			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	体幹の前面を洗う			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	上肢を洗う			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	下肢を洗う			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	体幹の背面を洗う			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	体幹前面を流す			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	上肢を流す			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	下肢を流す			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	体幹背面を流す			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
体を拭く			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ	
洗髪	シャンプーリンスの使用			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	洗う			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	流す			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
着衣	上位 (姿勢:立位 座位)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
	下衣 (姿勢:立位 座位)			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
浴室からの移動	シャワーキャリー・車椅子・手引杖歩行・伝い歩き・独歩			完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ

更衣動作

評価年月日	評価者				
服をダンスから取り出す	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
服をたたくでダンスに収納する	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
上半身の更衣					
社会的に受け要られる服の着脱	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
更衣の容易な服	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
上肢・体幹の義肢・装具	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
下半身の更衣					
社会的に受け要られる服(ズボン)の着脱	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
更衣の容易な服の着脱	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
靴下	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
靴	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ
下肢の義肢・装具	完全自立	要介助	不可能	未実施	→介助内容表にジャンプ

褥瘡： 無 有

評価記入日の時点で、リハビリテーションの支障となっている合併症：

病名1 ( )、 病名2 ( )、

### 心理情動評価

障害の受容： ショック期 否認期 怒り恨み期 悲観抑うつ期  
解決への努力期 受容期

機能障害への固執： 強い 中等度 普通 弱い

依存欲求： 強い 中等度 普通 弱い

独立欲求： 強い 中等度 普通 弱い

### 治療目標

#### (1) 機能障害

x 週間後の機能障害の回復目標

#### (2) 能力障害

x 週間後の能力障害の回復目標

FIM で設定する

退院時の能力障害回復目標

FIM で設定する

#### (3) 社会参加（主目標）

退院先： 自宅 親族宅 医療機関 その他 ( )

家庭内役割：

復職： 現職復帰 転職 不可 その他 ( )

#### 家族・家庭環境

同居家族

キーパーソン

家族の希望

家屋評価

## 治療内容

### 理学療法

#### 運動療法

関節可動域(ROM)訓練

筋力増強

他動運動 自動介助運動 自動運動 抵抗運動

座位→立位訓練

寝返り 座位保持 臥位から座位 座位での移動 四つ這い位 膝立ち・  
膝歩き

立位訓練

傾斜台 平行棒内立位訓練

歩行訓練

平行棒内歩行訓練 松葉杖

#### 物理療法

寒冷療法 温熱療法 電気刺激療法

### 作業療法

機能的作業療法

関節可動域訓練 巧緻運動 筋力増強運動 持久力運動

義手の装着、操作訓練

日常生活動作

食事動作 更衣動作 整容動作 家事動作  
トイレ動作 入浴動作

自助具、装具の訓練

職業前作業療法

心理的作業療法

### 義肢

### 言語障害の治療